

令和7年6月25日 歴史研究会

歴史研究プロジェクト

長谷 亮介

発表要旨

「歴史認識問題における学術性の問題に関して」

慰安婦問題や戦時労働者問題などの歴史認識に関わる事象に対して他国政府が外交問題化して日本に内政干渉することが歴史認識問題であるが、本来であれば、他国から干渉を受ければ反論しなければならない。しかし、日本の内部にはそれを助長する言論機関や学者、運動家らが存在し、むしろ問題を拡大させた。

佐渡金山などで問題となっている朝鮮人戦時労働者の事柄に関していえば、「佐渡は朝鮮人を強制連行してきて強制労働させた現場だ」と主張する人々の多くが一次史料を歪曲して紹介したり、隠蔽したりしており、学問に対して誠実とは言えない態度をとっている。

「日本＝悪」という先入観で歴史を捉え、実証的な研究を怠っている日本人は未だに少なくない。純粋な研究者を処罰せよと主張する者もいるが、そのような社会では永遠に和解は成らず、世界の平和も訪れない。